

8010 私は惚れっぽい。十代の終りから・・・

私は惚れっぽい。十代の終りから二十代の後半にかけて、幾度恋に陥ったことだろう。そのいずれも終りのある愛だった。

ふったふられたにかかわりなく、ともかく愛の終りはおそろしい。真空状態になった胸の苦しさにいたたまれず、三浦半島の海岸という海岸を狂ったように歩きまわった日もあった。

そんな荒治療もほとんど効果はない。壊れた愛から本当に立ちなおれるのは、新しい愛を得たときだけである。だから愛は、悪循環のように私の青春をとらえて離さなかった。

桐島洋子『女がはばたくとき』

[許容訳例]

It is my nature to fall in love easily. How many times must I have fallen in love during my late teens on into my early twenties! Each love was to end in failure.

The end of an affair is always terrible, irrespective of whether one refuses or is refused. At one stage, unable to bear the pain in my heart, which had become a complete blank, I frantically walked around almost the whole coast of the Miura Peninsula.

Such drastic measures are almost completely ineffective. It is only when one has acquired a new love that one can truly recover from a former love which didn't bear fruit. Thus, love seized my youth in a kind of vicious circle and would not set it free.

[翻訳例]

I fall in love easily. From my late teens on into my early twenties, I was in and out of love any number of times. Each time, it came to nothing.

Irrespective of whether one rejects or is rejected, the end of an affair is always grim. At one time, the pain from the emptiness in my heart became so unbearable that I trudged over almost every inch of coast on the Miura Peninsula.

Yet such drastic remedies are almost totally ineffective. Only when one has acquired a new love does one really recover from a former love that has gone wrong. In this way, love imprisoned my youth in a kind of vicious circle from which there was no escape.

■私は惚れっぽい。(8010)

★「私は惚れっぽい」は I fall in love easily でしょう。「何かに感じやすい；何かに弱い」という意味の *susceptible* を使って I have susceptible heart. と言うこともできますが、この表現は古く、現代の小説などには使われることはないでしょう。なお、I am easy to love. は「愛しやすい人」、つまり「人がよく愛してくれる」という意味で、ここでは駄目です。

■十代の終りから二十代の後半にかけて、幾度恋に陥ったことだろう。(8010)

★「十代の終りから二十代の後半にかけて」で一番日本語に近いのは from my late teens on into my early twenties です。この on は「続けて」という意味です。他には in my late teens

and early twenties も使えます。この形(A and B)が使えるほど時間が近接しているのですから、from my teens to my early twenties は間違いではないのですが、ここでは考えものです。時間が離れていて、たとえば、from my late teens to my early forties ならいいのですが。

★「幾度」は many times でもいいのですが、それを強調した any number of times がいいと思います。なお、countless times も使えます。

◆直接話法の文を地の文に混ぜない。

「幾度恋に陥ったことだろう」を How many…で始めると、直接話法の文を地の文と混ぜることになります。日本語では現実味を伝えるために普通に使われるのですが、英語では滅多に使われません。特に How many…とか How often…とかのように、終わりまでいかないと疑問文なのか感嘆文なのかわからないので使わないと思います。普通の副詞や形容詞の場合なら、たとえば、How gratefully the breeze blows!とか、How beautiful she is!のように使うこともありますが、そういう場合でも、直接話法ではなく、Represented Speech を使うことが多いのです。詩人の James Kirkup は日本人の学生の書く思いがけない英語の組み合わせ表現に新鮮な楽しみを見いだしていましたが、普通の読者は身近な英語で知る異国を楽しむのであって、たとえば、地の文に Finish that all before you go out. と出てきたら戸惑い You must finish that all before you go out. で安心するのです。

★「恋に陥った」ですが、すでに fall in love は使ってしまったし、ここでは「幾度」という副詞もあるので I was in and out of love という表現にしましょう。in and out of love の組み合わせは『英和イディオム完全対訳辞典』(ジャン・マケーレブ・岩垣守彦編著、朝日出版社) に I fell in and out of love many times before I met my husband. (夫と出会うまで、私は何度も恋をして別れるを繰り返した) が収録してあります。

■そのいずれも終りのある愛だった。 (8010)

★「そのいずれも終りのある愛だった」は、そのまま訳すと Each love was to end in failure. ですが、ここでは「終わっても何も残らない。実にならない」という意味の came to nothing を使うことができます。Each time it came to nothing. とか Each time it was to come to nothing. としてもいいでしょう。

■ふったふられたにかかわりなく、ともかく愛の終りはおそろしい。 (8010)

★「ふる」は対象が「人」なので reject がいいでしょう。refuse は「もの・こと」を「拒絶する」ということに使うのが普通です。「ふられる」は、もちろん、be rejected です。

★「・・・にかかわりなく」は irrespective of…です。ここは「A した B したにかかわりなく」ですから irrespective of whether A or B です。

★「ともかく」は、ここでは「いつも・どの時も」の意味なので always でその感じができます。at any rate は「とにかく・いずれにしても」で、ここでは使えません。

★「愛の終り」は the end of love ですが、「終りのある愛」というと、普通、love affair ですから the end of an affair とすることもできます。なお、an affair の代わりに a love は駄目です。これにすると「いろいろある love の中の一種類の love」という意味になってしまいま

す。

★「おそろしい」ですが、ここでは「耐えがたい」とか「やりきれない」「経験したくない」というようないろいろの意味が入っているので訳しにくく、terrible, dreadful, awful など可能ですが、「恐ろしい・ぞつとする・無慈悲な・残酷な」という意味の grim が適当のように感じられます。

■真空状態になった胸の苦しさにいたたまれず、三浦半島の海岸という海岸を狂ったように歩きまわった日もあった。(8010)

●注意すべき「連体修飾節+不定代名詞的体言」(真空状態になった胸の苦しさ)

★「真空状態になった胸の苦しさ」は「連体修飾節(真空状態になった) + 不定代名詞的体言(胸の苦しさ)」になっていますが、この「胸の苦しさ」は「私の胸の苦しさ」(特定体言)ですから、「(代)名詞+関係詞節」を使うことはできません。「(代)名詞+コンマ関係詞節」で、the pain in my heart, which had become a complete blank です。また、もっと簡単に the pain of[from] the emptiness[vacuum] in my heart と処理することもできます。

★「いたたまれず」は「その場にこれ以上居ることがたえられなくて」の意味だと思っていたのですが、最近は「耐えられず」という意味にも使うらしく、ここはその意味なので be unable to bear the pain…とすることもできます。

●この文は「胸の苦しさ」を主語にすると the pain from the emptiness in my heart became so unbearable that…と so…that…の構文で処理することもできます。

★「三浦半島の海岸という海岸」は the whole coast of the Miura Peninsula か、あるいは almost every inch of coast on the Miura Peninsula です。「海岸」ですが、seaside は江ノ島のような海水浴場としての海岸を言いますから、ここではぴったりしません。大洋に面した海岸に対して使う coast がいいでしょう。shore は具体的に「波打際」とか「浜辺」のイメージです。

★「狂ったように」は frantically でもいいし、in the frenzy でもいいのではないかと思います。frenzy というのは「何かに凝る；熱意をもって何かをする」という意味です。

★「歩きまわる」は walk around のほかに trudge (重い足取りでとぼとぼ歩く) over を使うこともできます。

●「連体修飾節+体言」(歩きまわる日)

「歩きまわる日もあった」は「連体修飾節+体言」ですが、ここは「日」にこだわる必要はないと思われる所以「ある時は…を歩きまわった」と言い換えて処理することが可能です。「ある時は」に one day を使う例もありますが、だいたいは the next day と対になって使われています。ここでは at one time (いつだったかある日) とか at one stage (どの段階だったかある時) などを使うといいでしょう。

■そんな荒治療もほとんど効果はない。(8010)

★「荒治療」は、ここでは実際の治療(treatment)ではなく「手段」ですから(drastic) measures です。他に remedy(e.g. Desperate disease must have desperate remedies.—Shakespeare,

Hamlet, IV.i.i.9)も使えます。この方が日本語に近いかもしれません。なお、ここは傷ついた愛の治療に関する一般論ですから「そんな荒治療」は such a drastic measure より such drastic measures と複数にした方がいいでしょう。

◆hardly (ほとんど・・・ない) と almost (ほとんど)

「ほとんど効果はない」は is hardly effective では駄目です。これに意味があるとすれば「決して effective なものとは言えない」ということです。is hardly effective at all とすれば「ほとんど効果はない」という意味になります。また、この代わりに使えるのは almost useless か、almost totally[completely] ineffective です。ineffective にはいろいろな段階があって終着点がないので almost ineffective とは使えないのです。totally とか completely を加えて終着点を作つてやると almost が使えるのです。概して、hardly と almost は使い方が難しい言葉です。たとえば, She is hardly beautiful. は「彼女はお世辞にも美しいとは言えない」という意味です。It's hardly cool today. は「今日は決して涼しいとは言えない→今日は暑い」という意味です。I could hardly lift it. (やっと持ち上げることができた→もう少し重かったら持ち上げられなかつたかもしれないけど、そうでないので実際には持ち上げることができた、ということ) Hardly anybody is here. (まだ人がいた。→もう少し人がいなくなつたら誰もいなくなつてしまふことだけ、実際には誰かいた) このように終着点・限界点のある言葉としか使うことが出来ないので、たとえば、He could hardly speak French. は意味のない文で、限界点を加えて He could hardly speak French at all. (彼はとてもフランス語が話せるとは言えなかつた) とすると正しい文になるのです。

■壊れた愛から本当に立ちなおれるのは、新しい愛を得たときだけである。 (8010)

●「連体修飾節+不定代名詞的名詞」(壊れた愛)

「壊れた愛」は「連体修飾節+不定代名詞的名詞」ですから、英語では「名詞+関係詞節」で処理します。ここでは次に「新しい愛」とありますから、「壊れた古い愛」と考え、さらに、全体的に一般論として言つてゐるので、不定冠詞を付けて a former love that didn't bear fruit とか、a former love that has gone wrong[sour]とします。

★「本当に」は truly か really でしょう。

★「(・・・から) 立ちなおれる」は「(・・・から) 立ちなおることができる」ですから can recover (from...)です。

★「新しい愛を得る」は one has acquired a new love でしょう。acquired の代わりに gained を使うと「勝ち取る」という意味になつて、ここでは強すぎると思ひます。なお、got も可能ですが、これは had と同じで軽すぎます。

●「・・・するの・・・する時だけである」

この文は簡単にして「A するの、B する時だけである」ですから It is only when one... that one can... という強調構文で処理することも出来るし、簡単に Only when one..., one can... としてもいいと思ひます。

■だから愛は、悪循環のように私の青春をとらえて離さなかつた。 (8010)

★「だから」は so では弱すぎるようです。Thus, …か、あるいは「こういう風に」という意味で In this way を使ってもいいと思います。

★「悪循環のように」は「悪循環」そのものではないので in a kind of vicious circle [spiral] です。

★「私の青春をとらえて離さなかった」の〔て〕は「順次同時」なので and です。文字通りに訳すと Love seized my youth and would not set it free.とか、もう少し比喩的にすると Love imprisoned my youth, from which there was no escape.となります。